

庚寅文月 24日
無涯塾師範 廣瀬敏男

私の目標

(自力弁道)

私は居合を習いはじめて35年を過ぎたが、この区切りに当たって何を指して居合を続けて来たのか改めて自分に問うてみた。

今までは、健康のため、或はストレス解消、精神力の高揚のためなど、まとめて「自己研鑽」という風に括^{くく}ってきた。

でも、「自己研鑽」というのは私にとって、ひとつのプロセスであって目標ではないと思っていた。そんな悩みを胸にしていた。

たまたま読んだ或る書籍のなかで、「自力弁道」の文字が私の心を捉えた。

即ち、

「自力弁道とは、自己を磨くこと」と、ある。

平たく言えば一生懸命修行することだろう。

そこまでだと、今まで私が目標としてきた自己研鑽と大きな違いはない。

だが、続けて、

「石ころを磨いても石ころ。それを悟るところに大悟^{たいご}がある。大悟に居坐ってはならない」と。

死ぬまで懸命に居合をやり抜けば、「石ころを磨いても石ころ」と、悟ることは何とか出来そうに思える。

「大悟しても、大悟に居坐ってはならない」と、いう後段の言葉をよく噛み締め精神を昇華できればと思う。

この「自力弁道」という言葉に接し、私の居合修行の目的がやっとハッキリしたように思う。 了